



★TAC農業所得20%アップ2020（2020年の目標達成に向けて）

PDCAサイクルでの昨年の反省点・・・一番は水稻収量の低下が考えられます。

TACとして今年度は「水稻の収量を向上」させることを第一に農業所得向上を目指します。

収量向上

TAC農業所得20%アップ8月～9月共通目標

- ①出穂後も飽水管理の継続（水）。
- ②出穂日から収穫期を予測し品種、圃場ごとの収穫日程計画（適期収穫）
- ③適正な乾燥・調整で高品質米生産と歩留り向上で所得向上

今年は水不足で大変な年となっています。
地域で協力し合いながらよろしくお願ひします。

①出穂後も飽水管理の継続（水）、出穂後25日後までは。

- × 早期落水** ⇒
- ・ 下位葉の枯上がりや倒伏の発生
 - ・ 登熟不良、未熟粒の増加、品質低下によるタンパク質含有率の増加で食味低下

②出穂日から収穫期を予測し品種、圃場ごとの収穫日程計画（適期収穫）

（収穫期目安）

8月5日までは本年値、以降は予測値を考慮し予想しました。

品 種	幼穂形成期	出穂期	収穫期目安
葉月みのり（積算温度 950℃）	6月22日頃	7月14日	8月17日
新潟次郎（積算温度 1,000℃以降）	6月25日頃	7月14日	8月19日
越路早生（積算温度 950℃）	6月25日頃	7月15日	8月18日
こしいぶき（積算温度 975℃）	7月2日頃	7月23日	8月27日
コシヒカリ（積算温度 1,000℃）	7月12日頃	8月1日	9月7日
新之助（積算温度 1,050℃）	7月17日頃	8月7日	9月17日

収穫期予測は8月5日現在、暑い日が続いており収穫期目安は早まる可能性があります。

水不足等の影響で登熟期が早まっている圃場があります。

収穫期予想はあくまでも予想です！！

予想日より前もって圃場の籾の黄化具合を確認して下さい。

まずは各圃場の出穂期を把握し、出穂日からの積算温度で収穫期予想をたて予想日の10日前程度に実際の黄化具合をみて圃場ごとの収穫日計画をたてましょう。

籾水分でも刈り取り適期を判定できます。

※刈り取り適期、籾水分の標準値は22.0～23.9%です。1日0.5%程度圃場内で水分が低下します。20%をきると著しく胴割れの発生が増加します。

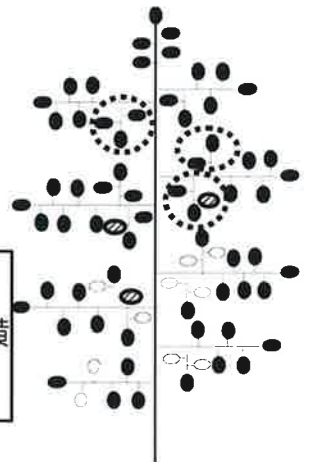
実際の刈り取り適期

籾の黄化率85～90%が適期です。

（右図参照）

刈り取り適期の1週間前が50%程です。

[収穫適期の穂の状態]
点線内の部分の二次枝梗籾が黄化した頃が収穫適期となります



③適正な乾燥・調整で高品質米生産と歩留り向上で所得向上

乾燥時の注意点

- ・できるだけ2段乾燥（水分18%で6時間程度乾燥を止め、調湿を行った後、仕上げ乾燥）を行いましょ。目安は1時間に減水分0.8%以内が目安になります。
- ・玄米の仕上げ水分は14.5～15.0%を目標とし、過乾燥にならないように行いましょう。過乾燥の米は食味を低下させ、胴割粒が多く発生します。

籾摺り・調製の注意点

- ・ライスグレーダー網目は1.9mm（酒米2.0mm）をお願いします。
- ・ゴムロールの交換は早目に行いましょう。編摩耗の発生（肌ずれの発生抑制）
- ・籾摺りは籾の温度が常温近くまで下がってから行いましょう。（胴割れや肌ずれの発生抑制）
- ・特に作業開始時に籾の混入がないか確認してください。1,000粒に3粒を超えると2等以下に格付けとなります。

★農機センターコンバインレンタル機のご紹介★

- ・機種 クボタER447（4条 47PS） 保有台数1台
- ・一日レンタル料金 100,000円（税込）
- ・一週間レンタル基本料金 560,000円（税込）

計画的なご利用をお勧めしています。

お問合せ先
ジェイエイサービス柏崎
農機センター
TEL0257-25-3146

★平成30年産米の取り組み基本方針★

JAへ集荷結集を！！

品質向上目標

項目	目標値
1等級比率	95%以上
整粒歩合	80%以上（米粒判別器による粒数比）
タンパク質含有率	コシヒカリ6.0%、こしいぶき6.2%（玄米水分15%換算）
適正水分	14.5～15%

JAへの出荷結集

主食用米の集荷・販売目標 185,000 俵に設定し、新潟米・JA柏崎米の安定供給を図ります。平成30年産米の出荷契約数量は目標を上回る契約をいただきました。ありがとうございました。一俵一俵、確実な出荷をよろしくお願いします。

JA米の要件について（一般米との格差300円/俵）

- ①JAと出荷契約して全農県本部に売渡委託した米穀
- ②100%種子更新された米穀、コシヒカリはコシヒカリBL（法律に基づき生産された種子）
- ③2等以上に格付けされた（米穀農産物検査）
- ④水分15.5%以下（米穀農産物検査）
- ⑤生産記帳履歴記帳が確認された米穀（JAが確認、農薬安全使用基準、品質向上を目指した栽培）

集荷、検査について

- ①皆掛け重量＝紙（30.5kg）、フレコン（1030.5kg）、くず米（25.5kg）です。
- ②集荷、検査は原則として11月末まで通常の仮渡金での対応となります。

お問合せ先 営農指導課 TEL0257-21-2095

★JAグループ独自農業支援のご紹介★

TACに何でもご相談下さい。

にいがた農業応援ファンドの創設

課題克服にチャレンジする担い手に必要な資金の一部を助成します。

メニュー	平成30年下期助成金予算総額
①「JAグループ新潟 営農・経済改革プラン」推進事業	4,000万円（県域共通）
②加工・流通・販売の促進応援事業	1,000万円（県域共通）
③親元就農応援事業	3,000万円（県域共通）

メニュー	対象者	事業内容	助成内容	募集期間
①	改革プランに沿った取組みを実践する農業者（法人含む）	「農業所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」につながる取組みを支援します。	対象費用の50%以内（上限100万円） 園芸生産において農業生産の拡大や農産物販売高の増加につながる取組み（資材費、農業機械設備等）	平成30年10月1日～平成30年10月31日まで
②	自ら加工・流通・販売に取組む農業者（法人含む）	必要な機械・機具の取得費、研究開発費等支援で生産拡大に取組み所得向上を図る。	対象費用の50%以内（上限100万円）	平成30年10月1日～平成30年10月31日まで
③	親元へ就農する子（孫を含む）またはその配偶者 ※注1	親元で新規就農する場合の親元へその営農費用を助成し、農業を通じた地域の活性化につなげる。	1事業者あたり上限30万円、親元農家の子（孫含む）またはその配偶者であること。3親等以内	平成30年1月1日～平成31年3月31日まで

※注1 平成28年1月1日以降に就農し45歳未満の方

活用のポイント

①「JAグループ新潟 営農・経済改革プラン」推進事業

- ・園芸生産での設備導入を特に支援する内容となっています。
面積拡大、品質、収量向上等に向けての設備導入をご検討下さい。

②加工・流通・販売の促進応援事業

- ・自らが農産物を加工・流通・販売に取組む費用を助成します。
例）野菜の保冷庫を導入し、適期収穫で品質向上を図り面積拡大も行う。

③親元就農応援事業

- ・平成28年1月1日以降に就農し45歳未満の方がいましたらお知らせ下さい。